



光明の学び

S部門／都肢体校ハンドサッカー大会第4位！

◆2/16(土)、駒沢公園で開催の「第30回東京都肢体不自由校ハンドサッカー大会」(参加20校)に参戦の本校部活動チーム「光明サンライズ」が2連勝して、準決勝戦に進み、見事4位となりました。新たな応援幕を張った応援席からの御声援ありがとうございました。



皆無でした。そこに風穴を開けたのが、3年前から始まった全国肢体校ポッチャ大会「ポッチャ甲子園」です。

そして文化面で初となる全国大会「全国肢体校高等部プレゼンカップ“ミラコン2018”」ファイナルステージが2/5に志村学園特設会場で開催されました。文科省幹部や都内肢体校長とPTA会長が招待された会場では、各地区大会を勝ち抜いた地区代表7名のプレゼン映像が、遠隔授業の技術を活用して多元中継されました。

本校からも東京地区大会にエントリーしましたが、地区で第3位でとなったため、ファイナルステージへはあと一歩でした。次回大会の活躍を大いに期待します。

B部門／最優秀賞の賞状・トロフィー・盾・届く！

◆都総合文化祭放送映像部門にエントリーしたB部門共同制作映像作品に対する最優秀賞トロフィー・賞状・盾が届きました。(写真は表彰式会場)



開校記念日2/26(火)を前にして

来週、平成最後の開校記念日2/26(火)を迎えます。(この日は自宅学習です。) 来年度は新たな天皇陛下の御誕生日が2/23であるため、来年度以降の開校記念日を変更すべく準備しています。

港区麻布で昭和7年に開校したS部門の母体校である「東京市立光明学校」が手狭となり、現在の松原校舎を増築し、2校舎体制に拡大したのが昭和14年の2学期中途でした。それ以来(学童疎開を挟み)、この世田谷区松原の地で教育活動を積み上げ、ついに来年度の2学期中に、当地での学校教育が満80年を迎えます。地域の皆様の御理解があって、日本初の公立肢体不自由教育校としての教育が今日まで継続できたのです。地域への感謝も込めて、新開校記念日を設定します。(保護者全体会で詳細を御説明します。)

S・B両部門／開校1周年記念「光書展」を開催中！

◆本校や分教室に通う学園生も、在宅訪問学級や病院訪問学級で学ぶ学園生も、誰もがエントリーできる全校書道展を開催しています。プロの書道家の先生にも審査に入っただき、部門・学部・教育課程別に審査し、入選作品(アースブルー賞)を選定しました。さらにPTA会長等も招聘しての最終審査委員会で、金賞・銀賞を選定しました。書道家の先生からは学園生の闊達な創作書道に対してお褒めの言葉を多数いただきました。「次回は私も！」と全学園生の励みとなるように、国語科・書道科の先生のコメントを付して入選作品展「光書展」を3/8(全校保護者会開催日)迄開催しています。御鑑賞ください。

本校企画室職員が人命救助で知事から表彰状！

昨年6月、東松原駅で発生した高校生の線路転落事故の際、救助を行った本校経営企画室職員の稲垣宏和主事に世田谷消防署長感謝状が贈られました。さらに2/7(木)の都職員表彰式におきましても、都知事から表彰状(人命救助)が贈呈されました。本学園の誇りです。



校長 田村 康二郎

S部門 全国プレゼン大会「ミラコン2018」開催！

◆高校界では硬式野球だけでなく、全国優勝を競う各種大会がスポーツ以外にも、芸術・文化面(例:俳句・英語スピーチ・手話他)も多数あります。また、盲学校界では約90年前から全国弁論大会を重ねてきています。しかし肢体不自由校高等部では(移動の難しさ等の様々な課題があって)全国規模のスポーツ大会や弁論大会は

S・B両部門 全学部（セーフティ教室）（1月23日・水）

1月23日（水）、学園発足後2回目となる「セーフティ教室」が実施されました。

文科省は、学校健康教育の一環として「学校安全」を重視し、それらを「交通安全」「生活安全」「災害安全」に3分類して各学校で具体的な安全教育に取り組むように指示しています。

都立学校においては、年に一度、「子どもの安全について、考え、行動する」セーフティ教室を開催し、「災害時における身の守り方・交通安全・SNSの活用ルール」等様々なテーマを設定して、各学校の児童・生徒の実態を踏まえて行っています。

本学園において今年度は、「正しい横断歩道の渡り方（交通）・特殊詐欺に関わらない（生活）・消火器訓練、煙中訓練（災害）」等についての学習活動を実施しました。

特殊詐欺に関わらない（生活安全）（S棟）



S棟において、北沢警察署の方から、学園の中学部生、高等部生を対象として、「特殊詐欺に関わらない」と題した講演をしていただきました。

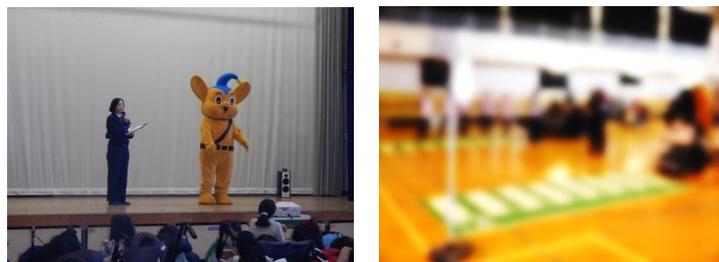
新聞、テレビのニュース等で、毎日のように報じられる特殊詐欺、一般的には「振り込め詐欺」と称されていますが、この犯罪の中で、中学生や高校生、さらには大学生が悪い意味で果たす役割がとて大きいとのことでした。

具体的には、「受け子・出し子」の30パーセントが中高生や大学生で、アルバイト感覚で金欲しさに誘いを断れず1回だけなら、という軽い気持ちで犯罪に加担してしまい、取り返しのつかない結果になってしまった学生が多いとのことでした。

犯罪に加担して少年院送りになった学生を主人公にした動画を見て、軽率な行為の代償として、学生が人生で失ったものの大きさを生徒は学習しました。

在学中はもちろん、進学や就職した後も、本学園生はこうした間違いは起こさないと信じています。

正しい横断歩道の渡り方（交通安全）（体育館）



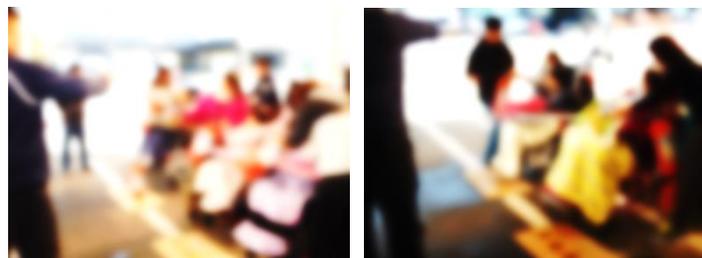
体育館では、小学部生を対象にして、北沢警察署の方に加え、北沢交通安全母の会・さくら会の御協力を得て、横断歩道の安全な渡り方の学習をしました。

警視庁のマスコット「ピーポ君」も駆け付けてくれました。体育館に信号機を設置し、児童は実際に横断歩道を渡る練習を行い、安全指導の意識を高めました。

消火器訓練、煙中訓練（災害安全）（バスヤード）

地震が起こり、それに伴い火災が発生した時に怖いのが有毒な煙。煙の中をいかに上手に避難するか？また、火災が発生したときは、まず消火器を利用して初期消火に努めなければなりません。

煙の中を上手に逃げたり、消火器を慌てずに使えたりするように、中学部生と高等部生が体験しました。



上の写真は、消火器使用訓練の様子です、ピンを外して、レバーを強く押し、目印に向けて思い切り消火剤（訓練時は水）を噴射しました。



煙中体験は、松原消防出張所の御協力を得て実施し、実際に煙がモウモウと湧き出るテントの中を通る体験をしました。

（生活指導主幹教諭 長 雅洋）

お知らせ：3月11日（月）10:00～11:00
指定二事業（専用通学車両・呼吸器）報告会を行います。詳細は後日配布するプリントをご覧ください。

S・B両部門 寄宿舍（SNS講演会）（1月21日・月）

1月21日（月）にスマートフォン・タブレット安全教室を実施しました。生徒・保護者・教職員合わせて22名の参加があり、「ゲームや動画サイト、SNSなどスマホ・ネットへの依存」「誹謗中傷や写真掲載など情報発信トラブル」「無料コンテンツの落とし穴と自撮りの危険性」をテーマにした動画教材を見ながら問題点について考えました。一人一人感想や問題点を発表し、よくなかった点や望ましい行動など、適切な使用に向けたポイントについて参加者全体で確認しました。最近増えているトラブル事例の報告や、実際の画像を用いた詐欺サイトの見分け方の紹介な

どもありました。中・高校生にとって身近な存在でもあり、安全に使用することで生活を豊かにするスマートフォンですが、御家庭でのルール作りやフィルタリングの設定、使用者が自己コントロールできることが重要という話がありました。生徒たちも真剣な姿勢で話を聞いていました。

さて、3月11日（月）に3学期行事「まとめの会」を実施します。卒業生をお祝いしつつ、皆で楽しく過ごせる一日にできるように、実行委員のメンバーを中心に準備を進めています。当日はゲームや個々の得意技を活かした発表を予定しています。

（寄宿舍指導員 宇山 訓弘）

S・B両部門 全学部 華道（おもてなしの花）の取組（2月6日・水）

2月6日（水）に華道教授にご来校いただき、華道体験「おもてなしの花」を実施しました。今年度は、S部門小学部Hグループ、中学部全グループ、高等部全グループとB部門中学部、高等部が参加しました。

当日は、朝早くから花屋さんが、各グループに色とりどりの花束を用意し届けてくださいました。

華道は、日本の伝統文化の一つで、おもてなしの花文化があります。「ありがとう！」の気持ちを込めてお世話になった方々や学校に来校いただいた方々に華道の精神で花を生けました。

S棟では、華道3流派の説明や基本の生け方を講師の先生方から教わり、花器を選びチームで相談しながら素敵な花を生けることができました。完成した花にテーマを考えて発表しました。S部門小学部では、「笑顔」「we are wonderful」同中学部では「お花畑」「春小春」同高等部では「妙春」「友達」B部門中学部「日の出」同高等部「森」など花のイメージや季節感あふれるテーマをつけました。

各グループで生けた花々は、2月8日に行われた全国公開研究会で展示中の光書展やオリパラロードに華を添えることができました。「花はいいね」「またやりたいなあ」「家でもやってみようかな」という声が聞かれたり満面の笑顔が見られたことがとてもよかったです。「花を生ける」活動が児童・生徒それぞれの生涯学習に繋がることに期待しています。



（オリ・パラプロジェクト担当 主任教諭 達 直美）